

団塊世代はどこへゆく

ものづくり現場から団塊雇用を考える (下)

金属労協は、2007年4月から団塊世代の引退が始まる、いわゆる『2007年問題』について、ものづくり産業で働く労働者の立場から、前号で「団塊の世代はどこへゆくものづくり現場から団塊雇用を考える」(上)を掲載したが、第二弾として、「団塊の世代はどこへゆくものづくり現場から団塊雇用を考える」(下)を特集する。

下編では、地域一体型で中小ものづくり企業のネットワークの構築など、ものづくりサポートに取り組む「大田区産業振興協会」の活動紹介と、平成18年に大田区優工場に認定された「同和鍛造株式会社」の「ものづくり技能・技

術の伝承」への取り組み「熊川学校」とそこで活躍するベテランたちの姿を紹介する。

さらに、団塊世代のセカンドライフのいきいきとした過ごし方について、東芝を退職して中国の地で起業し活躍する久保田氏、トヨタ自動車の技術者から57歳で早期退職し折りたたみ自動車製造の会社を設立して活躍する白石氏、シニア海外協力隊での活躍した青井氏の3例を紹介する。

そして、参考として、セカンドライフをいきいきと暮らせる海外の地域についての情報をお届けする。

(編集・文責) IMF-JC 組織総務局



Illustration : しおたまこ